広報かがみの 7
2014年7月号 第113号 毎月1日発行

シリーズ 第50回

中世の信仰の広がり

兵庫県姫路市の廣峯山に鎮座する、牛頭天王を祀る廣峯神社は、鎌倉時代からご利益のある神社として信仰を集め、廣峯神社のある播磨国だけでなく、但馬・丹後・備前・備中・備後・美作・因幡・摂津・丹波、現在でいえば兵庫・岡山・広島東部・鳥取東部・大阪北部・京都中部などの近隣地域にまで信者を広げていました。

鎌倉時代から南北朝時代の廣峯神社には、約三〇家の社家があり、社家の者は「御師」として各地を巡り、信者を地域単位で「旦那（檀那）」として組織し、各地の旦那へお札を配布したり、旦那が神社を参詣する際には、宿坊を提供したりしていました。また、旦那は御師が来ると宿舎や、初穂料として財物を提供しました。当時、この旦那に対する権利（旦那職）は、社家の財産として譲渡や売買も行われていました。

写真１　廣峯神社・拝殿（姫路市）

写真２は、廣峯神社の社家に伝わる書状です。「刑部守延坊舎等譲状」と呼ばれているもので、刑部守延という人物が、南北朝時代の貞和三年（一三四七）に、自分の持つ廣峯山の建物や家財道具、そして各地の旦那職を娘の子に譲ることを示した文書です。

写真２　刑部守延坊舎等譲状（「廣峯文書」）（『上齋原村史』より）

この中に、美作国内の旦那として、「ウエツキ、ニイ野、一宮、カヽミ、ヲクツ、サイ原、院庄、マカヘ、南賀茂、タナ村、大野、ナウ山」が挙げられています。このうち、「ヲクツ」、「サイ原」は、現在の奥津・上齋原・下齋原とみて間違いないでしょう。カヽミ（香々美）・大野・マカヘ（真加部）については、勝田・英田郡域にも古代・中世から続く同様の地名がありますので、いずれに該当するかは不明ですが、一宮・香々美・院庄・真加部・田邑（タナ村）・大野は隣接する地域ですので、鏡野町域に含まれるのかもしれません。だとすれば、町内の広い範囲で廣峯信仰が広がっていたことになります。

写真３　廣峯神社の社家・黒田家跡

また、この書状には、サイ原・ヲクツの地名が記された最も古い史料としての価値もあります。この史料によって、少なくとも南北朝時代頃にはすでにサイ原（才原・斎原）や奥津の地名があり、そこに人々が集落を営んでいたことがわかります。

ちなみに、廣峯神社は今年の大河ドラマの主人公、黒田官兵衛の祖父・重隆が、黒田家秘伝の目薬を御師に依頼され、各地で配布したことで財を成したという伝説があります。官兵衛の時代の廣峯神社大別当は、官兵衛の主君・小寺政職の弟で、また江戸時代以降の社家には黒田姓をもつ家があり、廣峯山にはその屋敷跡が残されていることからも、廣峯神社と黒田家の深い関係がうかがえます。

また、中世の美作では、和歌山県の熊野三山を信仰する熊野信仰も盛んで、熊野那智大社文書の中には「御先達若狭阿闍梨浄範の旦那　美作国　甲立・田中・越畠源六」（応永二年〈一三九五〉）、「岡之坊の地下旦那」（嘉吉三年〈一四四三〉）などの記述があり、越畑や岡坊（古川）の有力者が旦那になっていたであろうと推測されています。

交通・通信も未発達な中世の山村で、これほどのネットワークを築いた当時の人々の行動力と信仰心には、驚くべきものがあります。

参考資料：『奥津町史』、『上齋原村史』、『鏡野町史』、『津山市史』、「鳥取県史だより」、「廣峯神社パンフレット」

生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/